

研究室名	先端機器分析センター
------	------------

発表時期	2019年
学会名	植物化学調節学会第 54 回大会
演題名	LC/MSを用いたブラシノステロイド簡易分析法の検討
発表者	○湯本絵美 ¹ 、軸丸裕介 ² 、柴田恭美 ³ 、横田孝雄 ³ 、謝肖男 ⁴ 、野村崇人 ⁴ 、柳原尚久 ^{1、3} 、朝比奈雅志 ^{1、3} ¹ 帝京大学 先端機器分析センター、 ² アジレント・テクノロジー株式会社、 ³ 帝京大学バイオサイエンス学科、 ⁴ 宇都宮大学バイオサイエンス教育研究センター (○; は発表者、※; 卒研生または大学院生、アンダーライン; 本学教職員、研究員)
内容	ブラシノステロイドはステロイド骨格を持つ植物ホルモンの 1 種であり、植物体内ではカンベステロールを原料として活性型ホルモンであるカスタステロン (CS)、ブラシノライド (BL) が生合成されることが知られている。ブラシノステロイドの生理機能を明らかにするために、これまで主にガスクロマトグラフィー質量分析器を用いた内生量の定量が行われてきた。この手法は確立されたものであり、これまでのブラシノステロイドが関わる現象の研究において重要な役割を果たしてきた。一方で、この手法は複雑な予備精製と熟練を要する手技によって成立しており、より多数のサンプルを簡便かつ安定して測定できる手法も求められてきた。この課題を解決するために、本学会では液体クロマトグラフィー質量分析器 (LC/MS) を用いたブラシノステロイドの簡易分析法の確立について検討した結果について発表した。
関連画像	